

令和3年度第1回瀬戸市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体会議 議事録

| | |
|------|---|
| 開催日時 | 令和3年6月29日（火）午後2時30分から午後4時20分まで |
| 参加者 | 委員：別紙委員名簿のとおり 事務局：高齢者福祉課長、高齢者福祉課長補佐兼地域支援係長、担当主事2名 |
| 場所 | Teams を活用した WEB 会議 |
| 内容 | <p>1 開会</p> <ul style="list-style-type: none"> 委員の紹介 <p>2 議事</p> <p>(1) 令和3年度生活支援コーディネーター活動報告 【資料1】を基に事務局から説明 〈説明内容〉</p> <p>①瀬戸市全域（第1層）：インターネットを活用したサロンの開催方法を学ぶ、オンラインサロンでの担い手養成講座を開催し、14名が参加。今後も継続して開催を検討。</p> <p>昨年度から引き続き Google MAP を活用した「地域支えあいMAP」を作成しており、現在居場所と掲載の調整を行っている。今後地域の居場所が社会福祉協議会のHP内のGoogle MAPで閲覧が可能になる。</p> <p>コロナ禍で外出、買い物ができない高齢者向けの情報提供・フレイル予防として、弁当業者に聞き取り、瀬戸市資源マップ「つながりやっぱりおもしろいやり」が完成。今後も内容を変え、継続して作成していく予定。</p> <p>②ふたば（第2層）：19か所あるよりどころでは開催回数が減少し、中止となった。しかし、中には人数制限や時間短縮等の工夫をし、開催しているところもある。今後は新しい生活様式に合わせて継続できるように支援していく。</p> <p>また、若い人が多い東山町では1年以上サロンを開催できていない場所もあり、近隣住民同士の関係性の希薄化が見られた。今後インターネット等のツールを活用して新たな仕組みづくりを検討する。</p> <p>③しなの（第2層）：緊急事態宣言下では地域行事や催事等が中止となるところが多く、解除後再開した際の参加者からは外出自粛による足の衰えや、人との交流機会の減少による寂しさを訴える方が多くあった。今後、居場所の再開や実施のための主催者への支援や周知を行い、外出機会の創出に向けて取り組む。</p> <p>また、東明連区が瀬戸市移動支援のモデル地区となったため、地域ニーズの把握を行う。</p> <p>④中央東（第2層）：地域活動の減少について、地域住民からはコロナ禍では無理に実施する必要もないという意見も多くあった。しかし、外出自粛の影響で身体機能や認知機能が低下する高齢者も多くいる。今後は新しい生活様式に合わせて地域の居場所を開催するなど、地域とつながることができる活動を提案・支援していく。</p> <p>また、道泉連区が瀬戸市移動支援のモデル地区となったため、地域ニーズの</p> |

把握を行う。

〈質疑応答〉

[瀬戸市シルバー人材センター]から質問。

①ふたば圏域の報告の中の「集まる機会の減少」に記載されている「新たな生活様式」とはどのような意味か。

②瀬戸市で行う移動支援事業とはどんな事業か。

[第2層生活支援コーディネーター]から回答。

①感染をさせないための、マスクの着用、密にならない、消毒の徹底等の感染防止対策という意味。今は一般的になっているが、できていない地域もあるため、他地域や他市町村の事例も参考にしながら感染防止対策を提案していく。

[瀬戸市シルバー人材センター]から質問。

①感染拡大防止のための制限は必要だが、ワクチン接種後は深刻に考えなくてもいいのではないか。

[瀬戸地域福祉を考える会まごころ]から質問。

①公共施設は瀬戸市の判断で閉鎖されているのか。

また、新しい生活様式も重要だが、高齢者が介護予防のために居場所へ行くことは、愛知県が不要不急の外出に当たらないとしている。すべての公民館等居場所を閉鎖してしまうことで、フレイルや認知機能の低下につながるのではないかと。不要不急にあたらないということを尊重して判断・対応してほしい。

[委員長]から意見。

①出かけることは生活において重要な活動。コロナ禍は続いている状況ではあるが、ワクチン接種も始まり、新しいステージに入るのではないかと。

[事務局]から回答。

①公共施設は瀬戸市の判断で閉鎖している。閉鎖を判断した理由は、当時人口あたりの感染者数が多かったため。基本的に愛知県のガイドラインを基に対応している。不要不急の判断については、皆さまのご意見を危機管理部門へ共有させていただく。

[瀬戸市シルバー人材センター]から意見。

①根本をしっかりさせたいうえで、現状に合わせて新しい生活様式を維持してほしい。

[瀬戸市民生委員児童委員協議会]からの情報提供と質問。

②移動支援について内容を教えてほしい。

また、山口連区では「やまぐち孝行息子」が始まっており、移動支援を検討する参考にしてほしい。

[瀬戸地域福祉を考える会まごころ]からの情報提供。

①菱野団地でも居場所「ぷらっと」があり、買い物支援も行っていた。現在は中止しているが、7月の中頃からはカラオケやコーラスを除いた活動が再開される予定。

[委員長]からの意見。

①愛知県のまん延防止等重点措置は7月上旬に解除予定だが、解除されることで人の動きも変わり、今までとは異なるステージとなる。そこへ照準を合わせ、目標を設定してほしい。

[事務局]からの回答。

②瀬戸市での移動支援事業は令和2年度から令和4年度まで県から委託されている事業。令和3年度と令和4年度の2か年で道泉連区・東明連区の2か所で実証実験を行う。また、本事業はフレイル予防にあり、そのための外出機会を創出させることが目的となっている。

[委員長]からの情報提供。

②瀬戸市の移動支援事業は自発的に外出したくなるような仕組みづくりを行うものであり、住民のニーズに合う形で移動支援事業を行っていく。東明連区では、もともと住民主体の買い物ツアーが行われていたが、移動支援をさらに周知し広く展開するためのツールとして検討。また、道泉連区では、地域のカフェに来られない人を連れ出すためのツールとしての展開を検討している。

(3) 令和3年度瀬戸市施策の方針

【資料2】を基に事務局から説明。

昨年度の政策提言の内容でも取り上げられていたとおり、つながるための「居場所」「移動」「担い手」の施策について」説明

①居場所：コロナウイルス感染拡大防止のため休止していた事業が順次再開しており、せとらカフェでは、今後認知症サポーターと連携しながら、認知症の当事者の活躍の場を推進していくための仕組み作りを行う。

②移動：(質問事項で説明のため割愛。)

③担い手：元気高齢者サポーター養成講座について、今年度の実施内容について検討し、年度内に実施を予定している。

また、チームオレンジでは、認知症当事者と認知症サポーターのマッチングを行い、当事者のやりたいこと、できることの実現のために支援していく。

④補足データ「コロナウイルス感染拡大前と現在の外出者の比較について」:

令和2年度中は市内イベントの多くが緊急事態宣言下で中止となった。

また、観光庁によると、国内旅行者が前年度比23～77%減少しており、全国的に外出を控える人が増えた。

本市で実施している配食サービスでは、令和2年度中の新規登録者が85名となり、前年度比10%の増加となった。外出機会が減り、家に引きこもることで身体状態が悪くなり配食サービスの申請に至ったと考えられる。

外出が減ることで危惧される影響について、国立長寿医療研究センターによると、友人や知人に会う回数が減った人は、コロナ下で活動を辞した人と比べて介護になるリスクが1.5倍高くなることが分かった。周囲とのつながりを維持す

ることが健康を維持することにもつながる。

〈質疑応答〉

〔瀬戸地域福祉を考える会まごころ〕から意見。

資料2の居場所以外にも、地域には公にしていない居場所がある。そういった居場所にも聞き取りを行い、現状を丁寧に調べ、行政で把握していない居場所の共有をしてほしい。

また、地域の居場所に集まってくる人の中で認知症の方をいかに見つけるかが問題。地域の中で認知症の理解促進できる施策を検討してほしい。

〔委員長〕から意見。

地域資源を発掘していく中で、見逃している活動があるのではないかと。地域資源マップの作製の際に、どのように草の根の活動の情報を収集し、まとめていくか検討していく必要がある。

〔瀬戸市自治連合会〕から意見。

八幡台では、団地内で毎日ラジオ体操を行っており、30名ほどの高齢者が集まっている。また、その他の萩山、原山でも南公園で同様の活動が行われているので、話を聞いて、ニーズを把握してほしい。参加者の活動状態から声掛け等の見守り活動にもつながっている。

〔委員長〕から質問。

どのようにすれば、草の根の活動を見える化できるか。コーディネーターの活動では情報が入ってきにくいものなのか。

〔第1層生活支援コーディネーター〕から回答。

組織的なものは情報としてはいってきやすい。仲間内で広まった集まりは町内会等から吸い上げてデータ化していく必要があると考えている。コーディネーターとしても把握できるように努める。皆さまからも情報をいただきたい。

〔瀬戸地域福祉を考える会まごころ〕から意見。

地域の活動を調べることは大変で、コーディネーターだけでできることではない。細かいところまでは調べる必要はなく、地域の情報をまとめてわかるだけでいい。コーディネーターとしてぜひ行っていただきたいが、本会議の委員や皆で協力して行っていくことで情報も入ってきやすいのではないかと。

3 瀬戸市の課題検討

〔委員長〕からの意見。

コロナ禍で、今まで以上に外出ができない状況が続いている。国立長寿医療研究センターによると、1年前の緊急事態宣言が発令される前と後では高齢者の運動時間（散歩や外出を含める）は30%減少し、外出時間が減っていた。運動不足による影響が高齢者に表れていることは明白である。

これまでの提言である「つながりを継続し、生み出す高齢者施策」では大きな施策の柱を提言してきたが、今後は具体的な施策を提言する必要がある。特にコ

コロナ禍でのつながりの希薄化を課題として、令和3年度から令和4年度の課題検討として、新しい生活様式の中で外出機会の創出をしていくために具体的な提案を検討していきたい。

本会議では、地域にどのような支援があるか把握し、マップ作りを行っていく。地域資源となる草の根の活動を把握するためには、委員の皆さまには積極的に動いていただき、情報の提供・共有をしていただきたい。外出機会の創出に効果のあるより具体的な提案に向けて、本会議で検討していきたい。

今後、具体的な施策の検討に向けて会議を進めていきたいと考えているが、委員の皆さまからのご意見を伺いたい。

[瀬戸地域福祉を考える会まごころ]からの意見。

大賛成。協力できることはみんなでやっていく。

[瀬戸市シルバー人材センター]から情報提供。

シルバー人材センターでは、高齢者の方の楽しみや趣味で周囲とのつながりが持てるように、今年度の計画としてオーガニックコットンの栽培から製品化等を検討している。若い方も参加できるようにしていきたい。また、この活動を機に、フレイル予防となり、健康維持につなげていくことが目的。

[瀬戸旭医師会]から意見。

今後認知症の方が増えていき、より早期発見やチームオレンジ、せとらカフェなどにつなげていくことが必要になる。MC Iの方やその家族も入りやすいような工夫を行うことで広く普及できるようになるのではないかな。

[地区社協会長連絡会]からの意見。

皆さまからの意見を聞いて、さまざまな視点で検討していくことが必要だと感じた。

[瀬戸介護事業連絡協議会]からの意見。

これから認知症の方が増えていき、地域の中でも日常となっていくと考えられる。認知症の方も普通に生活ができるように、地域の方の理解や協力が必要。そのため環境整備の先導をできればと考えている。

[瀬戸市民生委員児童委員協議会]からの意見。

行政からの案内以外にも、委員の皆さまからの意見も吸い上げて進めていくことでより動きが活発となる。また、あった方がいい制度についても意見があるのではないかな。

[委員長]からの意見。

委員の皆様からの承諾をいただきましたため、今後は、具体的な政策を検討・提言できるように会議を進めていく。

3 その他

事務局より今年度の会議の案内。第2回は例年と同様に10月を予定。

| | |
|--|------|
| | 4 閉会 |
|--|------|